ご 案 内

開館時間	9時～17時（入館は16時30分まで）
休 館 日	毎週火曜日（祝日は除く）、祝日の翌日（土・日は除く）、年末年始（12月28日～1月4日）
入 館 料	無 料

交通のご案内

〈自動車〉 岡山駅～50分
岡山空港～20分
賀陽IC～10分
岡山IC～吉備新線にて35分
津山IC～国道53号・429号線にて70分
総社IC～国道180号・429号線にて30分
新見IC～国道180号・313号線にて60分

〈バ ス〉 岡山から中鉄バスが、高梁から備北バスが運行しています。

※ 交通手段は自家用車が便利です。駐車場あり。

岡崎嘉平太記念館

〒716－1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川4860－6
きびプラザ内
TEL 0866－56－9033 FAX 0866－56－9066
http://www.okazaki-kaheita.jp
E-mail okmh@okazaki-kaheita.jp

（財）岡山県郷土文化財団

〒700－0822 岡山県岡山市北区表町1－7－15 702号
TEL 086－233－2505 FAX 086－232－4329

岡崎嘉平太記念館

周恩来総理と歓談 北京・人民大会堂 昭和46年3月1日（1971）

岡崎嘉平太

1897年岡山県吉備郡大和村(現加賀郡吉備中央町)で生まれた岡崎氏は、小学校1年の暮れ自宅が焼失、総社町(現総社市)に転居。父は間もなく渡米し1917年客死したので、母に育てられ、県立岡山中学入学後は寄宿舎に入り故郷を離れました。

第一高等学校、東京帝国大学を卒業後、日本銀行に入りドイツにも駐在しました。

1938年陸軍省事務嘱託として上海に駐在、翌年、華興商業銀行が設立されると理事となるため、日銀を退職します。その後、大使館員として上海に勤務しました。

学生時代の、中国からの留学生との交わりから中国に深い関心を寄せ、生涯を通して日中の友好と共栄の理想を胸に秘めて尽力しました。

第二次世界大戦後、終戦処理を済ませて1946年帰国、公職追放の身となりますが(1950年解除)厳しい労使紛争のなか企業の再建に取り組み、それを果たしました。また、航空会社の経営にあたり、日本の民間航空事業の発展に貢献しました。

さらに、戦後の日中国交断絶時代に貿易の発展を通じて、国交の早期回復を願い日中覚書貿易の中心的役割を担って国交正常化を実現に導いたことは特筆すべきことです。

常に、高い志をもち、信頼と愛情に満ちた岡崎氏の人柄は、人々の敬愛の的であり、数々の功績に対し、勲一等瑞宝章、賀陽町名誉町民章、総社市名誉市民章、岡山県名誉県民章が贈られています。

岡山県名誉県民の称号が贈られた日
昭和60年5月9日(1985)

「信はたていと　愛はよこ糸　織り成せ人の世を美しく」は岡崎氏が信条としていた言葉です。

略　歴

明治30年(1897)	4月16日	吉備郡大和村(現加賀郡吉備中央町)大字北に父　鶴太郎、母　のぶの長男として生まれた。
37年(1904)	7歳	大和尋常高等小学校入学
38年(1905)	8歳	吉備郡総社町(現総社市)に転居 申義尋常小学校へ転校
43年(1910)	13歳	総社尋常高等小学校高等科入学
44年(1911)	14歳	岡山県立岡山中学校入学
大正5年(1916)	19歳	第一高等学校(独法科)入学
8年(1919)	22歳	東京帝国大学法学部政治学科入学　大正11年卒業
11年(1922)	25歳	日本銀行入行本店勤務　12年小樽支店勤務 15年本店勤務　昭和3年時子夫人と結婚 4年ドイツ駐在　8年帰国本店勤務
昭和13年(1938)	41歳	陸軍省事務嘱託　上海駐在
14年(1939)	42歳	日本銀行退職　華興商業銀行設立、理事
17年(1942)	45歳	大東亜省参事官
18年(1943)	46歳	在中華民国大使館参事官
21年(1946)	49歳	上海から帰国
22年(1947)	50歳	公職追放　25年解除
24年(1949)	52歳～32年60歳	池貝鉄工(株)取締役社長
26年(1951)	54歳～27年55歳	丸善石油(株)取締役社長
27年(1952)	55歳～42年70歳	日本ヘリコプター輸送(株)設立 取締役副社長 36年代表取締役社長 (昭和32年全日本空輸(株)に社名変更)
28年(1953)	56歳～40年68歳	(株)日本放電加工研究所設立 代表取締役社長 (昭和35年ジャパックス(株)に社名変更)
32年(1957)	60歳～46年74歳	貯蓄増強中央委員会会長
37年(1962)	65歳	日中貿易交渉のため高碕達之助氏(団長)らと訪中、日中貿易に関する覚書及びLT貿易取決め調印(38年度分) (LTは、日中交渉代表者高碕達之助氏と廖承志氏の頭文字)
38年(1963)	66歳	LT貿易交渉の団長として訪中、 LT貿易取決め署名(39年度分)、周恩来総理と会見以後、LT貿易交渉の団長として昭和47年75歳まで毎年訪中し、次年度分を取決め署名(昭和43年LT貿易の名称が日中覚書(MT)貿易に変更)
47年(1972)	75歳	日中国交正常化、賀陽町(現吉備中央町)名誉町民
48年(1973)	76歳	覚書貿易終幕
53年(1978)	81歳	勲一等瑞宝章
60年(1985)	88歳	総社市名誉市民、岡山県名誉県民
平成元年(1989)	92歳	戦後100回目の訪中(上海、曲阜、済南、北京) 9月22日没

県立岡山中学校1年生(明治44年)

日本銀行本店勤務時代(昭和4年11月)

全日空相談役室にて(昭和56年)

記念館の概要

岡崎嘉平太記念館は、岡崎氏の生涯とその思想、多くの功績を次の時代の人々に永く伝えるための顕彰記念事業として、氏の生誕の地、吉備中央町に平成13年(2001)8月、開館しました。遺族から贈られた遺品を中心に約7500点を収蔵しています。

展示室と研究室が設置され、展示室には、岡崎氏の書をはじめ中国の要人から贈られた品、訪中時の記念品や、飛行機の模型など、岡崎氏をしのぶ品が展示してあり、書斎の復元コーナー、ビデオコーナーも設けられております。また研究室には主に岡崎氏の蔵書や、氏が理想としていた東西思想融合の研究のための文献などがあり、希望により閲覧できます。

年一回の予定で企画展、講演会を開催しています。

正面入り口

書斎コーナー（復元）

常設展示室

研究室（企画展風景）

中国要人との交流

郭沫若氏宅を訪問　昭和48年7月12日（1973）

李先念氏を訪問　昭和50年5月12日（1975）

鄧小平氏と会談　昭和55年4月10日（1980）

鄧穎超周恩来夫人と会談　昭和63年9月23日（1988）

近隣の岡崎嘉平太ゆかりの地

吉備中央町大和山山頂に建つ「望郷」の碑

旧大和小学校跡地に建つ岡崎氏の歌碑とその歌（大和公民館所蔵）

主な展示品

常設展示室では、岡崎嘉平太氏の生涯とその思想・業績がしのばれる遺品を、随時展示替えをしながら年代順に紹介しています。

まず学生時代、それから日本銀行・ドイツ勤務、華興商業銀行勤務、上海・大使館勤務時代～終戦、会社再建、全日空などの経営、貯蓄増強運動、そして日中友好に尽くした時代の品々や、また愛用品、書などを展示しています。

県立岡山中学校時代に中国からの留学生・陳範九氏に書いてもらった書

飛行機模型

貯蓄増強中央委員会会長を辞任したときに贈られた大皿。地図には講演のため訪れた場所に赤い印がついている。

愛用品

著書

肖像画（秋山清水氏画）

岡崎嘉平太氏が北京で購入した周恩来総理の像

周恩来総理から贈られた絹のテーブルクロス

鄧穎超周恩来夫人から贈られた皿

訪中記念のバッチ

池貝鉄工㈱社長時代の岡崎嘉平太氏の書